



シリーズ 子どもたちの発達

『ごっこ・役割遊び』

子どもが身近な体験を通してする遊びが「ごっこ・役割遊び」です。例えば、お医者さんごっこ、レストランごっこ、おままごと、車屋さんごっこ……などなど、数え上げればキリがないほどですが、すべて「ごっこ・役割遊び」です。

大人の世界の分だけ、子どものごっこ遊びは多種多様にあります。それは、ごっこ遊びは子どもが身近な大人や、大人の世界をモデルとして遊ぶものだからです。

大人が日常的にする行為……仕事をしたり、洗濯・掃除などの家事をしたり、買い物に行ったり、友人と話しをしたりする……そういったすべてのこと真似したり、再現する遊びが「ごっこ・役割遊び」の特徴と言えるでしょう。

大人のすることや大人の世界に憧れ、「その世界に触れてみたい！！」と興味・関心を持った眼差しで、子どもは常に見ています。善し悪しに関わらず大人のする行為は、子どもの好奇心や探究心をくすぐり、大人の行為には何か意味があることと子どもは受け止めます。それが子どもの「やってみたい!!」という意欲そのものです。

それゆえ、大人の世界を自分のものとして真似したり、再現・実現できるごっこ遊びは、子どもを真剣にさせます。

遊びの中で役割を引き受けてそれらしくふるまう姿はとてもほほえましく、うそこの電話で本当に話しているようにふるまうなど、自分のイメージの中で体験をリアルに再現している姿には、子どもの発達を感じることが出来ます。

今回はこのような「ごっこ・役割遊び」を通して、子どもたちが何を学び、発達させているのかを考えて行きたいと思います。

ごっこ・役割遊びには様々な要素があります。

その一つは「模倣する」ということです。

子どもは見たこと、聞いたこと、体験したことを自分の世界に取り込み、繰り返すことで遊びを通して、そのことの本質を理解します。つまり、子どもは自分が見た光景や自分の体験したこと、やりとりしたことを覚えていて、それをまねっこすることで周りの世界を自分と結び付けていくのです。

例えば、人形のお世話をする遊び。親や周囲の大人がしてくれるように人形を可愛がり、ミルクを飲ませたり、洋服を脱がせたり着せたりし、お風呂に入れたりもします。お世話をしながらお話しもするでしょう。子どもがどうしてもらうことが愛情を感じたり、喜びと感じているかが見えて来ます。そしてそのことを、人形を世話するという形で他に向けてしているのです。

二つ目は「役の学習」です。

父親・母親も役ですし、医者、先生、定員、お客さんも役です。子どもは電車に乗れば車掌さんになりたいと思いますし、パトカーを見ればおまわりさんに、病院に行けばお医者さんになりたいと思います。物語の中の桃太郎なども役です。

どんな役にもなりたい・なれる・なりきれぬ幼児期にたくさん遊びの中で繰り返す事はとても重要なことです。様々な「役」になることで、子どもはふるまいだけでなく役に期待されることや、役に合った社会の中での働きを学んでいっているのです。

例えば、「車掌さん」ならば、お客さんを電車に乗せて“目的地”まで運んでくれます。車掌さんらしくふるまうこと、言葉使い、お客さんに次の駅を知らせる、どのように乗って欲しいか伝える、目的地まで運転する……「車掌さん」という役を通して、子どもはこれだけのことを理解

し、なりきることでその役割を果たそうとしているのです。

役の数だけ役割も様々です。いくつもの役をすることで、いくつもの役割があることを子どもは知っていくのです。

三つ目は「想像」です。

なりたいもの、やりたいことを想像する、その中で見えるはずのもの、あるはずのものや事柄を想像します。

例えば、実際のものではないものである木の葉を食べ物に見立てたりして、現実には置き換えるということが出来るようになったり、自分だけでなく他者のうそっこにのる・そのつもりになる、人の考えや思い・行動を想像したり、予想したりもします。つまり、イメージするという事でしょうか。

最後に「創造」です。

ないもの・足りないものを作り出す、問題の解決を思いつく、遊びの中のルールを作る、環境により良く適応できるように変えることも「創造」です。

遊びの中にある要素を挙げると、子どもが楽しそうにしている姿だけではなく、その楽しさの中にも学びと、子ども自らが心身ともに発達していこうとする能動性をとても感じる事が出来ます。

では実際に、ごっこ・役割遊びの中で子どもは何を発達させていっているのでしょうか？！

考えられるのは、まず思考する力……「思考力」です。

興味を持ったり、面白がったり、感動したりと、子どもが何かを感じ、心が動くことで「何だろう？ どうしてだろう？」と考えます。そして、それを自分なりにやってみる方法などについても考えてみたりするのです。人間の思考する能力は、こうした実際の体験を通して発達していくと言えます。

次に「ことば」です。

自分の体験やイメージを表現するためのことば、そのことを他者に伝えるためのことば、共有することば。つまり、相手との間でお互いに関わりあおうとするためのことばです。

更に、役を通して、社会的な言葉の使い方や意味にまで広がっていきます。そしてより親密に共感的に関わろうとする会話、対話、自己表現などのコミュニケーション能力として発達していきます。

そして「ふるまい」ということも考えられます。

どんな時に、どうふるまえばよいのか？ 場面や状況に応じたふるまいを知っていきます。

情緒面では、感情を表したりすることや、そのことを他社に受け入れてもらえること・受け入れてもらえないことを通じて、相手には相手のつもりや状況があるということに触れることで自他の分離もしていきます。また逆に、相手を受け入れることも学ぶでしょう。

「行動力」も発達します。

自分のしたいことを実現させるために、イメージした遊びに必要な道具を揃えたり、それをどこでどうやるかという場所を決めたり、自分なりの工夫がされていきます。

また、そのように子ども同士の遊びをダイナミックに展開するために、ひとつのまとまった活動へと組織しようとするリーダーシップも育っていきます。

そして、そのすべてがバランス良く発達する中で、仲間関係と情緒……自分と周りの世界（人や物）に積極的に関わり、適応していこうとする社会性が発達していきます。

お家で、そしてお友達との中で、あるいは公園で。子どものしている「ごっこ遊び」をじっくりと見て、聞いて、観察してみるとまた違ったわが子の姿が見えてくるのではないのでしょうか？！どんなつもりがあって、どんな役を楽しんでいるのか、どんなことば・ふるまいを喜び、真似しているか、お友達とどんなやりとりをしているのか……意外な子どもの姿が発見されたりするかもしれませんよ！

柏市駅前認証保育園 Kid's Encourage
園長 日下部樹江

